

# 佐野史郎写真展 瞬間と一日

会期：2023年10月14日(土)～2024年1月14日(日)

主催：彫刻の森美術館(公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団)

協力：東京リスマチック株式会社、サンケイ総合印刷株式会社、株式会社mewgull、吉原写真館

## SHIRO SANNO Photography Exhibition Moments and a Day

会場：彫刻の森美術館 丸太広場キトキ



鷹尾俊一《メタモルフォーゼ》©Shiro Sano

映画やドラマ、舞台、音楽、そして写真活動など幅広く活躍する俳優、佐野史郎による写真展を開催します。本展は、彫刻の森美術館2024年カレンダーのための撮影を依頼したことから実現しました。カレンダーに採用された作品は、野外彫刻美術館を題材にしており、デジタルカメラやフィルムカメラの他、〈ピンホールカメラ〉という古典的な撮影方法も用いています。小さな穴から差し込む光線を通じて像がフィルムに焼き付けられるピンホールカメラによって、独特な質感と精緻なディテールが生み出されています。これらの作品は、昔ながらの技法と現代の視点が見事に融合し、佐野の写真家としての原点を表現しています。さらに、佐野家に保管されているアルバムや、これまでに撮影した作品と共に佐野の写真活動を辿る「佐野史郎写真史」を自ら綴り、展示いたします。(全89作品予定)

### 作家コメント

この度、2024年のカレンダー撮影のご依頼を受け、一年をかけて箱根彫刻の森、美ヶ原高原に展示されている作品を中心に撮影を続けてまいりました。さらには、こうして写真展をも開催していただくことになりました。けれど、そのことで、あらためて、なぜ写真を撮り続けているのか？なぜ写真に魅せられるのか？という根源的な問いかけを自分に対してすることとなり、生い立ちを遡って写真との縁を紐解く作業ともなりました。写真とは何か？…写真の起源にも触れようと、針穴写真にも挑戦いたしました。「瞬間と一日」のタイトルは、一瞬と一日、永遠が変わることなく、生ある今に等しく感じられたなら...との想いです。お楽しみいただけましたなら幸いです。

佐野史郎



特別番組：2023年10月13日(金)20:30～21:30／ニッポン放送 出演：佐野史郎、松任谷正隆

トークショー：2023年10月14日(土)13:30～14:30／彫刻の森美術館 丸太広場キトキ 対談：立川直樹

## 作家プロフィール

佐野史郎 Shiro Sano

俳優・1955年3月4日生まれ。島根県松江市出身。1974年東京神田神保町的美学校にて中村宏より油彩画を学ぶ。1975年、劇団シェイクスピア・シアターの旗揚げに参加。1980年、唐十郎の劇団状況劇場に入団。退団後1986年、林海象監督「夢みるように眠りたい」で映画主演デビュー。2006年、植田正治の写真を題材にしたショートフィルム「つゆのひとしづく」を監督。2008年東京と大阪のフジフィルムフォトサロンにて初の写真展「あなたがいるから、ぼくがいる」開催。

オフィシャルサイト <https://www.kisseido.co.jp>

## ラジオ出演

音楽家の松任谷正隆をゲストに迎え、「彫刻の森美術館カレンダー」の話題を入り口に、箱根、写真、彫刻、音楽について語り合う1時間番組です。

松任谷は、佐野の4年ぶりとなる新アルバム「ALBUM」（今年7月5日発売）にバンドSKYEとして参加。音楽や写真を通じてふたりが紡ぎ出す“箱根の魅力”をお楽しみください！

オンエア 2023年10月13日（金）20:30～21:30／ニッポン放送（FM93／AM1242／radiko）

出演 佐野史郎、松任谷正隆



【松任谷正隆】1951年、東京都生まれ。作編曲家、音楽プロデューサー。1974年 慶應義塾大学・文学部卒。4歳からクラシックピアノを習い始め、14歳の頃にバンド活動を始める。20歳の頃プロのスタジオプレイヤー活動を開始し、バンド「キャラメル・ママ」「ティン・パン・アレイ」を経て、数多くのセッションに参加。その後アレンジャー、プロデューサーとして多くのアーティストの作品に携わる。

小山薫堂「東京会議」メンバーとして、箱根彫刻の森美術館とのコラボ企画で「2022年カレンダー」の撮影コンペに参加。見事に自作品の表紙採用の栄誉を得た。2021年にバンドSKYEを結成し、佐野とはたびたび音楽制作をともにしている。

## トークイベント

開催日 2023年10月14日（土）13:30～14:30  
会場 彫刻の森美術館 丸太広場キトキ  
トークテーマ ミュージックとアート、彫刻の森、写真 など  
出演 佐野史郎、立川直樹



参加料 2,600円（入館券＆グッズ付き） 事前申し込み／応募人数100名

申込方法 特設サイトよりトークイベント参加券付きの入館券（電子チケット）を事前にご購入ください。

※チケット購入方法など詳細は特設サイトをご確認ください。

<https://www.hakone-oam.or.jp/specials/2023/shirosano.photographyexhibition/>

【立川直樹】（佐野史郎写真展プロデューサー）

70年代初頭から、メディアの交流をテーマに音楽、映画、美術、舞台など幅広いジャンルで活躍するプロデューサー／ディレクター。分野はロック、ジャズ、クラシック、映画音楽、アート、舞台美術、都市開発と多岐に渡り、音楽評論家・エッセイストとしても独自の視点で人気を集める。『シャングリラの予言』（森永博志と共著）、『ザ・ライナーノーツ』『ラブソディ・イン・ジョン・W・レノン』『I STAND ALONE』『音楽の聴き方』など著書多数。

ご取材希望の方は、「取材申込書」に必要事項をご記入の上、佐野史郎写真展PR事務局（片山・辻井）までご連絡ください。 トークショー60分／プレス会あり

## 作品の見どころ

## ● 佐野史郎が切り取った野外美術館「彫刻の森美術館カレンダー撮影」



彫刻の森美術館 屋外展示場

自然の恵みに育まれた日本屈指の観光地、箱根。季節ごとに表情を変え、訪れる度に新鮮な味わいと癒しを与えてくれる。そこに突如現れる人工造形物。彫刻の森の中を彷徨えば、自然との対話を交わす彼らもまた、カメラのファインダー越しの私に語りかけてくれるのだった。

## ● 父の写真好きを受け継ぐかのようにして写真を撮る「佐野史郎写真史」



紐を啜る少年～ミャンマーの子供たち～

故郷、島根県松江市、出雲の地は太平洋戦争時、空襲を逃れたこともあり、歴史的建造物など古来伝わるものが守られた。松江の実家は明治初期より残る古民家ゆえ、今もその頃からの写真が残されている。大正、昭和初期のモダニズムそのものといった写真も散見される。父は母と結婚した折、記念にと二眼レフのカメラと現像機器一式を揃え、撮影しては自分でプリントしていた。母の実家は出雲大社にある写真館。

## ● 目に見えぬものと見えるものが重なる佐野史郎の「セルフポートレート」



セルフポートレート

越の国、新潟県新発田市の吉原写真館は明治より続く写真館。現在の当主は六代目。そこで私は写真ならぬ、音楽のアルバムジャケット撮影を切望した。ならばと館主にことわりを入れ、持参の針穴写真機も設置し、セルフポートレートを撮影。露光時間八分。時は瞬間と数分、数時間、一日、一年、十年、百年、千年、数万年...何億年、永遠をも分け隔てずに流れ、留まり、目に見えるものと見えないものとの差異をかき消す。

## ● カレンダーの一日一日と、カメラのシャッターの一瞬を重ねた「瞬間と一日」



マルタ・パン《浮かぶ彫刻 3》

撮影を始めたのは新緑の季節、五月。秋にも訪れ、紅葉に季節の移ろいを感じ、春は桜。信濃の地、長野県、美ヶ原高原美術館は標高二千メートルでの撮影で、体力、気力との勝負。曇天の合間からわずかに覗く青空を逃すまいと、一瞬を追いかけて、不意に降り始める雨に追いやられた中だからこそ、二度と出会えぬ瞬間だったのだと振り返る。そうして瞬間が重なり、一日が過ぎ、一週間、ひと月が過ぎ、カレンダーは次の月へ、次の年へと受け渡されるのだと知る。

## ● 柔らかい写真表現で気配を表現「針穴（ピンホール）写真の魅力」

ガブリエル・ロアール  
《幸せをよぶシンフォニー彫刻》

カメラの語源、カメラオプスキュラは「暗い部屋」の意味。実像を投影する絵のデッサンの道具として発明されたという。投影された実像を化学薬品を用いて定着させたのが現在に至るカメラの起源だ。極彩色のステンドグラスの塔の中、針穴写真機を床に置いた。f:235、ISO:100、露光時間:8分。その間、螺旋階段を何人も人が行き交う。だが、映し出された写真には一人として写っていない。いるはずの人間が見えないならば、肉眼でも見えない人々がいるのかもしれない。

## | 展示作品 (一部) | -----



鷹尾俊一  
《メタモルフォーゼ》



ジャコモ・パツラ  
《バル・テイク・タクのバレリーナ デュエット》



ガブリエル・ロアール  
《幸せをよぶシンフォニー-彫刻》



新宮晋  
《終りのない対話》



アルナルド・ポモドーロ  
《球体をもつ球体》



マルタ・パン  
《浮かぶ彫刻 3》



高橋勝  
《旅行者 (スウェーデンの四季)》



柴田美千里  
《しまうま》

## 開催概要

展覧会名：佐野史郎写真展 瞬間と一日

会 期：2023年10月14日（土）～2024年1月14日（日）

会 場：彫刻の森美術館 丸太広場キトキ

開館時間：9:00～17:00（入館は閉館の30分前まで）

料 金：美術館入館料

大人 1,600円、大学・高校生 1,200円、中学・小学生 800円

休館日：なし（年中無休）

主 催：彫刻の森美術館（公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団）

協 力：東京リスマチック株式会社、サンケイ総合印刷株式会社、株式会社mewgull、吉原写真館

特設サイト：<https://www.hakone-oam.or.jp/specials/2023/shirosano.photographyexhibition/>

展示作品数：89点（予定）

◆2024年彫刻の森美術館カレンダー 2023年10月12日（木）発売予定 価格¥1,540（税込）

サイズ 壁掛けカレンダー（使用サイズ縦30cm×横30cm）

購入方法 彫刻の森美術館ショップ、一部書店、amazon等で販売予定

◆ラジオ出演 2023年10月13日（金）20:30～21:30／ニッポン放送（FM93／AM1242／radiko）

出演 佐野史郎、松任谷正隆

◆トークショー 2023年10月14日（土）13:30～14:30

会場 彫刻の森美術館 丸太広場キトキ

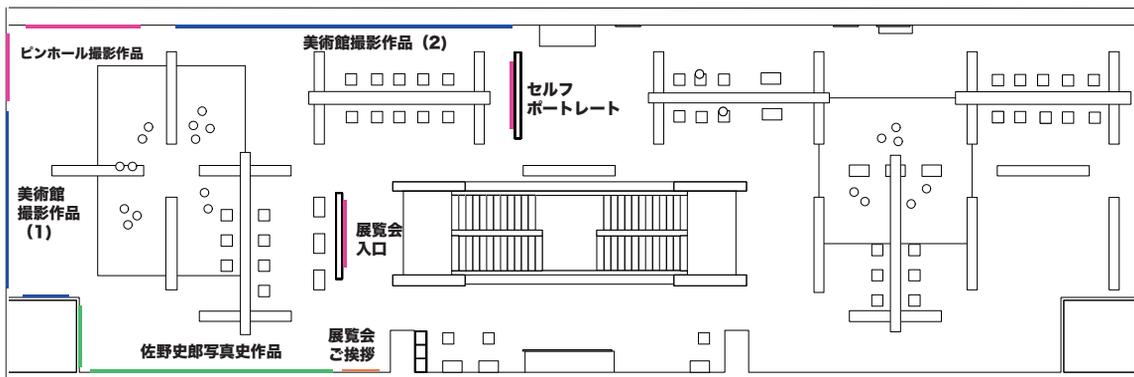
出演 佐野史郎、立川直樹

参加料 2,600円（入館券&グッズ付き） 事前申し込み／応募人数100名

特設サイトよりトークイベント参加券付きの入館券（電子チケット）を事前にご購入ください。

※チケット購入方法など詳細は特設サイトをご確認ください。

◆会場見取り図



◆取材に関するお問い合わせ◆

彫刻の森美術館

〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121 TEL:0460-82-1161 FAX:0460-82-1169

佐野史郎写真展PR事務局：片山・辻井 press\_sano.photo@hakone-oam.or.jp

## 丸太広場キトキ



## ◆彫刻の森美術館について



四季折々の雄大な自然が楽しめる箱根。

彫刻の森美術館は、その自然を生かして 1969 年に開館した、国内で初めての野外美術館です。緑豊かな屋外展示場に、近・現代を代表する彫刻家の名作約120点が常設展示されています。また、ピカソ館をはじめとする室内展示場や子どもたちが体験できる作品、天然温泉の足湯もあり、心豊かな憩いのひとときを過ごすことができます。

彫刻の森美術館（THE HAKONE OPEN-AIR MUSEUM）

運営：公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団

所在地：〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121

Tel：0460-82-1161

Fax：0460-82-1169

アクセス：詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

電車 | 小田原駅→小田急線箱根湯本駅→箱根登山鉄道「彫刻の森」駅下車、徒歩2分

バス | 小田原駅→小田急線箱根湯本駅→箱根登山、伊豆箱根バス「二の平入口」下車、徒歩5分

箱根登山観光施設めぐりバス「彫刻の森」下車

入館料：大人 1,600 円、大学・高校生 1,200 円、中学・小学生 800 円、未就学児 無料

※団体割引、障害者割引あり

※学生の方は証明書をご提示ください

※毎週土曜日はファミリー優待日（保護者1名につき中学・小学生5名まで無料）

## ◆取材に関するお問い合わせ◆

彫刻の森美術館

〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121 TEL:0460-82-1161 FAX:0460-82-1169

佐野史郎写真展PR事務局：片山・辻井 press\_sano.photo@hakone-oam.or.jp

## 【広報用貸出画像について】

以下の必要事項を入れた企画書、または、本紙に必要事項を記入の上、PDFデータを佐野史郎写真展PR事務局までお送りください。

佐野史郎写真展PR事務局：片山・辻井 [press\\_sano.photo@hakone-oam.or.jp](mailto:press_sano.photo@hakone-oam.or.jp)

## -----必要事項-----

## ■媒体情報

- 媒体名（番組・雑誌名等）：
- 媒体種類（新聞・雑誌・フリーペーパー・会報誌・社内報・TV・ラジオ・WEB・SNS等）：
- 掲載・放送予定日：
- 参考URL：
- 原稿確認予定日：

## ■申請者情報

- 貴社名：
- ご担当者名：
- メールアドレス：



画像1  鷹尾俊一《メタモルフォーゼ》 ©Shiro Sano



画像2  マルタ・パン《浮かぶ彫刻3》 ©Shiro Sano



画像3  彫刻の森美術館 屋外展示場 ©Shiro Sano



画像4  ガブリエル・ロアール《幸せをよぶシンフォニー彫刻》 ©Shiro Sano



画像5  紐を啜る少年～ミャンマーの子供たち～ ©Shiro Sano



画像6  佐野史郎 ©mewgull

## ■画像ダウンロード

【オンラインプレスリリース・広報用データダウンロードシステム】もご利用いただけます。

<https://www.artpr.jp/hakone-oam/shirosano-photo-exhibition>

■プレゼント用チケット（5組10名様）をご用意しています。ご希望の方は広報担当までご連絡ください

- 希望する
- 希望しない

## ◆取材に関するお問い合わせ◆

彫刻の森美術館

〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121 TEL:0460-82-1161 FAX:0460-82-1169

佐野史郎写真展PR事務局：片山・辻井 [press\\_sano.photo@hakone-oam.or.jp](mailto:press_sano.photo@hakone-oam.or.jp)

## 【取材申込フォーム】 press\_sano.photo@hakone-oam.or.jp FAX：0460-82-1169

取材をご希望の方は下記にご記入のうえ、取材希望日の3営業日前までにメールまたはFAXにてお申込みください。

お申込日： 年 月 日 ( ) 希望時間：

(予備日、時間などございましたら記載ください)

## 媒体情報

媒体名 (番組・雑誌名等)

媒体種：新聞・雑誌・フリーペーパー・会報誌・社内報・TV・ラジオ・WEB・SNS・その他 ( )

企画内容 (企画書添付可)

カメラ撮影：あり スチール 台 ムービー 台 三脚/脚立 台  
なし

取材人数：  撮影時に連絡がとれる連絡先 (携帯など)：

車両：

掲載・放送予定日：  参考 URL：

原稿確認予定日： ※WEB掲載の場合、いずれかに○をつけてください。  
コピーガード対応 可 ・ 不可

## &lt;撮影の注意事項&gt;

1. 撮影許可書を発行します。当日は必ずご持参ください。
2. 撮影の際にPRESS証をお渡しします。来館者に分かる場所に掲示してください。
3. 撮影使用時間は開館時間内の2時間以内となります。
4. 撮影は指定された場所で、来館者の見学の妨げをしないよう行ってください。
5. ドローンの使用はご遠慮ください。
6. 控室の用意はございません。
7. 撮影にあたり、所有権・著作権・肖像権等法令上の問題が生じた場合は、すべて撮影申請者が責任を負ってください。
8. 撮影後、掲載紙・誌、ビデオ、DVDなどを1部ご提出ください。Webサイト、動画配信、SNSの場合は、公開の際にお知らせください。
9. 施設および設備に損傷を与えた場合は、その損害を弁償していただくことになります。
10. 広報担当の指示に反して行われた撮影、掲載、放送に関するトラブルについて、当館は一切責任を負いません。
11. 撮影禁止エリアや著作権など、ご不明点やご質問がございましたら広報担当までお問い合わせください。

## 申請者情報

貴社名：

ご担当者名：

所在地： 〒

TEL：  メールアドレス：

## ◆取材に関するお問い合わせ◆

彫刻の森美術館

〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121 TEL:0460-82-1161 FAX:0460-82-1169

佐野史郎写真展PR事務局：片山・辻井 press\_sano.photo@hakone-oam.or.jp